

# 晩抽性寒玉系キャベツ 『YR晴信 (96201YR)』の 品種特性と栽培のポイント

雪印種苗(株)園芸作物研究グループ  
野菜研究チーム 松井 誠二

## 1.はじめに

弊社から今春より販売を開始しました寒玉系新品種『YR恋豊』（病気に強い寒高冷地の夏どり栽培、一般地の秋の早どり栽培用品種）を各産地でご利用頂いております。

今回は、さらに早い時期（初夏）から出荷できる寒玉系品種のラインナップとして『YR晴信（試作系統96201YR）』を発表致しましたので、品種の特性と栽培のポイントをご紹介します。

## 2.『YR晴信』の品種特性

### 1) 抽苔性

本品種は晩抽性の特性を持ち、芯の伸びが遅いため春の早播きに適します。

2) 生育は気温上昇に伴い肥大が促進されるタイプで、適期栽培では定植後65日前後で収穫期に達する中早生種です。生育中期～後半が低温期になる作型では肥大がやや緩慢になります。

3) 球形はやや甲高の偏平球で締まりが良くボリューム感、重量感ともに良好です。

4) 球内色は比較的良好で、芯が短いのが特徴です。

5) 初夏どりでも在圃性があるほうで、多収性も狙えます。

### 6) 耐病性

・萎黄病に強く、高温期の栽培でも安

心です。

- ・黒腐れ病には比較的強い方ですが、慣行の防除は行なって下さい。
- ・収穫時期が高温期になると軟腐病の発生が心配されますので予防的な防除を行なって下さい。

## 3.『YR晴信』の栽培ポイント

1) 低温期の育苗では保温し過ぎてあまり徒長苗にならないように適度な換気を行なって下さい。老化苗の定植は活着や初期生育停滞の原因になります。圃場水分が適度な時に適期苗で定植し、生育を促して下さい。

2) 外葉はややコンパクトなタイプです。春播きの場合、定植後しばらくは気温上昇が鈍いため、元肥主体で



▲『YR晴信』の栽培風景



▲YR晴信は揃いよく、きれいに仕上がる

慣行品種よりも多目の施肥の方が特性を発揮し易くなります。

3) 一般地、暖地の夏播き適期栽培は寒玉系として栽培が可能ですが、生育後半の気温低下による肥大不足などに注意して下さい。

4) 生理障害

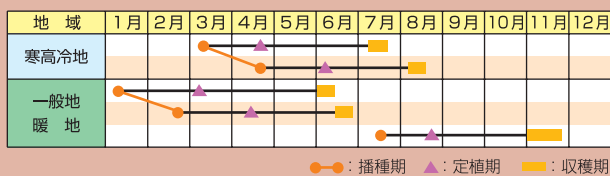
本品種はCa欠乏には比較的強い方ですが、高温・乾燥条件でCa欠乏が発生しやすい作型での栽培になりますので、圃場選定とカルシウム剤の散布を励行して下さい。

## 4.むすび

今回紹介した『YR晴信』は春播きができる肉質が硬い品種であるため、青果以外の加工・業務用としても普及

の可能性があります。本文で述べた本品種の特性を良くご理解頂き、良品生産されるようお願い致します。

図1.YR晴信の適作型



▲YR晴信は芯が短く、巻きがきれい



▲YR晴信の箱詰め荷姿